

「 家庭総合 」 シラバス

科目	家庭総合	単位	2	学年	2		
使用教科書	高等学校 家庭総合 持続可能な未来をつくる(第一学習社)			副教材等	生活ハンドブック資料&成分表(第一学習社)		

学習の到達目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。</p> <p>(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>
2 成績評価	<p>(1) a. 知識・技能 b. 思考・判断・表現 c. 主体的に学習に取り組む態度の3観点で観点別評価を行う</p> <p>(2) 定期考査、ワークシート、プリント等の提出、授業の取り組み状況等で総合的に評価する</p>
3 授業の展開	<p>HR クラス単位の一斉授業</p> <p>実習実験に関しては男女混成グループ(4～5名編成)</p>
4 学習方法	視覚教材を有効活用努力するとともに、実習・実験・を取り入れ、体験的な学習を通して理解を深める。

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

期	月	学習項目	学習内容(ねらい) および評価の観点	a b c			評価方法	
				a	b	c		
一学期	4	6章 衣生活をつくる 第1節 人の一生と被服 1. 私たちと衣生活	<ul style="list-style-type: none"> 被服は、気候・風土によって異なる一方、人生という長い時間軸で見ると、ライフステージによっても違ってくことを理解する。 乳幼児期、児童期・青年期、壮年期、高齢期ごとに、衣生活の留意点を学ぶ。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ワークシート(活動) プリント学習 ノート提出 定期考査 	
		2. 被服の機能－保健衛生上の機能	<ul style="list-style-type: none"> 被服の持つ保健衛生的な機能を生かし、望ましい着装について考える。 人間は体温を一定に保つため、被服の素材やデザイン、着装の工夫によって快適な被服気候をつくり出してきたことを理解する。 	○	○	○		
		3. 被服の機能－社会生活上の機能	<ul style="list-style-type: none"> 被服の持つ社会的・文化的な機能を生かし、望ましい着装について考える。 すべての人が楽しめる衣生活の実現がめざされていることを理解する。 	○	○	○		
		4. 被服の選び方	<ul style="list-style-type: none"> アパレル産業の発達にともない、現代の私たちの被服のほとんどが既製服化している現状を知る。 被服を購入する際には、品質表示をもとに取り扱い表示やサイズ、着心地、動きやすさ、縫製の善し悪しなどを調べることの重要性を理解する。 取り扱い表示の種類と意味、サイズ表示の見方について理解する。 	○	○	○		
	5	第2節 被服材料と管理 1. 被服の素材	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身のまわりの布がどのような繊維でつくられているかに関心を持つようにする。 代表的な布として、織物と編物の違いを知る。織物については、三原組織の交錯の仕方、編物では、メリヤス組織について理解し、それぞれ身近な事例を取り上げて確認する。 着心地に影響する布の性能について理解し、どのような布が着心地がよいかを考える。 さまざまな用途や目的に応じて開発された新しい被服材料について知る。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ワークシート(活動) プリント学習 ノート提出 定期考査 	
		2. 洗濯方法と表示	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯には湿式洗濯と乾式洗濯があり、それぞれの特性を理解したうえで、品質に応じて洗濯することを学習する。 	○	○	○		
		3. 洗濯のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の湿式洗濯に用いられる洗剤について、その働きや成分を知り、環境に配慮した洗濯の工夫について考える。 	○	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 実験レポート提出
		4. 被服の手入れと保管	<ul style="list-style-type: none"> 被服の劣化を防ぐためには、よい被服を選択すること、手入れをすることで適切に管理することが必要であることを理解する。 被服の手入れについて、主体的に取り組む態度を養う。 漂白・のりつけ・アイロンかけなどの手順を知る。 	○	○	○		

6 7	第3節 これからの衣生活 1. 衣文化の継承と創造	<ul style="list-style-type: none"> ・着物という日本の伝統衣装についての理解を深め、伝承に努めるとともに、自由な発想で着こなし、個性を表現できる力を身につける。 ・おもに冠婚葬祭などで着用されている「和服」と、西洋から入ってきた「洋服」との違いを知る。 ・和服に代表される平面構成と、洋服に代表される立体構成との違いを調べ、特徴を理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート(活動) ・プリント学習 ・ノート提出 ・定期考査 	
	2. 持続可能な衣生活	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の消費行動の多様化・個性化が多量の死蔵品を生む要因となっていることを理解し、消費のあり方を考える。 ・中古衣料のリユースやリフォームの工夫をする。 ・衣生活の面からできる、環境に負荷を与えない行動を考え、実践する。 	○	○	○		
	第4節 被服の製作 1. 私たちの被服ができるまで	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが日常着用している被服(洋服)を観察し、その構造を知る。 ・被服製作の手順を理解する。手づくりを部分的に加えることや被服を製作することが計画できるようにする。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート(活動) ・プリント学習 ・ノート提出 ・定期考査 	
	2. 体型と採寸	<ul style="list-style-type: none"> ・日本では、着用している被服のほとんどが既製服化している。自分の身体寸法にあわせて、既製服を正しく選ぶための採寸の方法を学ぶ。 	○	○	○		
	3. 被服製作の基本	<ul style="list-style-type: none"> ・被服製作に必要な基礎的な知識・技術を漏れなく身につける。 ・具体的には、縫うために必要な用具、布地の厚さと針と糸、縫いしろのしまつ、布地の幅と布地の表、しるしつけ・裁断、アイロンかけ、しつけなどを扱う。 	○	○	○		
	被服製作実習 ①エプロン制作	<ul style="list-style-type: none"> ・平面構成の被服づくりを簡易的に体験する。 ・基礎縫いやミシン縫い等、その縫い方をていねいに扱う。 ・ボタンや刺繍などで、個性を表現する。 	○	○	○	・実習作品	
	家庭科の学び方・学習から実践へ ・ホームプロジェクトとは	<ul style="list-style-type: none"> ・「ホームプロジェクト」の意義と実施方法について理解する。 ・生活の中から課題を見出し、個人単位で主体的に計画を立てて問題の解決をはかる。 	○	○	○	・課題提出(家庭基礎の授業全体を通じて行う)	
・学校家庭クラブ活動とは	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校家庭クラブ活動」の意義と実施方法について理解する。 ・ホームルーム単位または家庭科の講座単位、さらに学校としてまとめて、学校や地域の中から課題を見出し、グループ単位で主体的に計画を立てて問題の解決をはかる。地域社会に対する奉仕やボランティア活動を重視する。 	○	○	○	・授業態度		
2 学 期	9	1. 生涯発達する自分一人一人とのつながりのなかで	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯発達の視点に立って、乳児期から高齢期までのライフステージの特徴と課題を見通し、その課題を他者と関わりながら達成し、生まれてから死ぬまで発達し続けていくという考え方を理解する。 ・ライフイベントや人生の転機、あるいは家族の変化や社会変動などによって生じる課題を乗り越える際に、誰もが同じような方法や選択で達成するのではなく、その時の身近な他者や社会との関わりを通して一人一人が異なる過程をたどり、様々な生き方があることを理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート(活動) ・プリント学習 ・ノート提出 ・定期考査
	2. 青年期を生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の営みに必要な家族、友人、健康、金銭、もの、空間、技術、時間、情報など、生活する上で重要な要素が生活資源であることに気付き、それらに関わる情報を収集、整理することの重要性を理解する。 ・自立した生活を営むために、生涯を見通しながら、様々な生活課題に対応して適切に意思決定し、責任を持って行動することが重要であることへの理解を深める。 	○	○	○		
	3. キャリアの形成	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の目指すライフスタイルを実現するために、職業選択などの具体的な事例を取り上げたりして考察し、生活設計を工夫する。 	○	○	○		
	4. ワーク・ライフ・バランスを求めて	<ul style="list-style-type: none"> ・生活設計を通して社会の動きを見つめ、広い視野を持って生活を創造していくことや不測の事態にも柔軟に対応することの必要性を認識する。 ・固定的な性別役割分業意識の見直し、男女の平等と相互の協力などを取り上げ、生涯を見通した中で青年期をどのように生きるかについて理解を深める。 	○	○	○		
	10	1章 これからの生き方と家族 第1節 生涯の生活設計 第2節 家族・家庭と社会とのかかわり 1. 家族・家庭・世帯	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的、文化的、社会的制度としての家族について理解できるようにする。 ・世帯の動向にみられる特徴とそれを規定する社会的要因を分析し、検討する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート(活動) ・プリント学習 ・ノート提出 ・定期考査
	2. 家族・家庭の働き	<ul style="list-style-type: none"> ・家族形態の相違による家庭生活のあり方について検討し、その多様性を理解する。 ・家族の信頼関係によってつちかわれる精神的・社会的な人間形成の重要性について理解する。 	○	○	○		
	3. パートナーと出会う	<ul style="list-style-type: none"> ・相互の尊重と信頼関係のもとで夫婦関係を築くこと、共に協力して家庭を築くことの意義や重要性について認識する。 	○	○	○		

11	4. 結婚と変化する家族	・現代の家族・家庭の課題を経済や制度などの社会環境の変化と関連付けて理解する。	○	○	○			
	5. 家族に関する法律	・婚姻、夫婦、親子、相続など家族に関する法律や社会制度の基礎的な理解を手がかりとして、現代の家族・家庭について理解を深める。 ・明治民法と現行民法を比較し、どのような違いがあるか、これまでに実現した家族法のおもな改正点、まだ実現していない制度などについて、理解する。	○	○	○			
	2章 次世代をはぐくむ 第1節 子どもの発達 1. 次世代をはぐくむ	・先行する世代の者は、次の世代を担う子どもを健やかに育てる責任があり、子育ては、社会全体で支えていく必要があることを理解する。 ・子どもはこれからの社会を築いていくという視点から、子どもを生き育てることの意義や地域の一員として子どもの成長に関わることの意味について考えることができる。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート(活動) ・プリント学習 ・ノート提出 ・定期考査		
	2. 命のはじまり	・妊娠から子どもの誕生までの母体の健康管理、胎児の発育と母体の変化を学ぶ。 ・胎児の環境としての母体について理解し、母体の健康管理の重要性と生命の尊さへの認識を深める。 ・母体と子どもの健康には、家族、特に父親の協力と、それを支える社会のしくみが必要であることを知る。	○	○	○			
	3. 乳幼児の体の発達	・身体の発育や運動機能などの発達の概要を理解できるようにする。 ・乳幼児期は人間の発達の段階において最も発達が著しい重要な時期であることや、子どもの発達には個人差はあるが、一定の方向性や順序性があることを理解できるようにする。	○	○	○			
	4. 乳幼児の心の発達	・言語、認知、情緒、社会性などの発達の概要と、それらの発達が密接に関連していることを理解できるようにする。 ・乳児期の親との関わりによる愛着の形成は、将来の人間関係の基礎となることを理解できるようにする。	○	○	○			
	12	第2節 子どもの生活 1. 親と子のかかわり	・乳幼児期は、その発達の段階に応じた親の働きかけが重要であることを親の保育態度と関連付けて理解できるようにする。 ・社会的自立のためには、子どもの発達に応じて基本的な生活習慣や社会的な規範を身に付けさせることが親や家族の重要な役割であることを理解できるようにする。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート(活動) ・プリント学習 ・ノート提出 ・定期考査	
	2. 乳幼児の生活と安全	・健康管理と安全への配慮などについて理解できるようにする。 ・乳児の溢乳の対処や抱き方など、個々の子どもに応じた接し方を実践したり、安全や衛生に気を配り室内外の環境を整えたりすることの必要性を理解する。	○	○	○			
	3. 子どもの成長と遊び	・遊びが子どもの生活において重要であること、遊びを通して様々な心身の発達が促されることを理解できるようにする。	○	○	○			
	3 学 期	1	第3節 子育て支援と福祉 1. 地域社会と子育て支援	・家庭保育と集団保育を取り上げ、子どもの発達と環境との関わりについて理解できるようにする。 ・社会環境の変化による人間関係の希薄化、自然とふれ合う経験の不足、育児不安や孤立感、保育所不足と待機児童の問題などを取り上げ、子育て支援の必要性について理解できるようにする。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート(活動) ・プリント学習 ・ノート提出 ・定期考査
		2. 未来を担う子どもの権利	・児童憲章、児童福祉法、児童の権利に関する条約などに示された児童福祉の理念についてもふれ、子どもの福祉について理解できるようにする。 ・子どもの貧困や虐待の問題などを取り上げ、現代の子どもを取り巻く社会環境の課題について理解できるようにする。	○	○	○		
2		第2節 消費者問題を考える 1. 契約とは	・財・サービスの購入はすべて契約であることを知り、契約の重要性を理解する。 ・消費者被害の事例を通して、消費者被害の状況を理解し、消費者被害が起こる原因を考える。 ・契約した後でも、考え直して解約できる方法があることを理解する。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート(活動) ・プリント学習 ・ノート提出 ・定期考査	
2. 消費者問題はなぜ起こるのか		・大量生産・大量消費の時代に、商品の購入と消費をめぐって消費者側が不利益や被害を受けたことを契機に消費者問題が生じたことを理解する。 ・消費者として適切な意思決定のもとに権利を行使し、責任ある消費行動を取っていこうという態度を養う。 ・有用な生活情報を取捨選択して収集・活用していくことが重要であることを理解する。	○	○	○			

	3. 多様化する支払い方法とリスク防止	<ul style="list-style-type: none"> 販売方法、支払い方法が多様であることを知り、購入時に適切な判断が必要であることを理解する。 消費者信用について理解し、利用に際しては、慎重に行う意識と対応策を身につける。 	○	○	○	
	4. 消費者の自立と行政の支援	<ul style="list-style-type: none"> 消費者関連のさまざまな法律が制定され、国や各都道府県の機関が設置されていることを理解する。 消費者は、生産者や行政に自分たちの意向を伝え、その実現に向けての義務と責任があることを理解する。 	○	○	○	
3	第3節 持続可能な社会をめざして 1. 消費生活と持続可能な社会	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな消費者問題の発生の中で、消費者の権利が制定されたが、消費者の責任についても提唱された。消費者の権利の保障とともに、消費者一人ひとりに責任があることも理解する。・現代の消費生活が資源を枯渇させ、環境に悪影響をおよぼしていることについて考えさせる。 持続可能な社会の実現のためには、私たち自身が環境に負荷を与えないように工夫していく必要性を理解する。 次世代に負の財産を残さないよう、環境の保全に取り組む責任があることを認識する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ワークシート(活動) プリント学習 ノート提出 定期考査
	2. 消費者市民社会をめざして	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の少ない生活をめざして、生活意識や生活様式を見直し、環境に調和したライフスタイルの確立をはかる。 環境にやさしい消費行動を具体的な項目で示し、周囲と協力しながら実践する姿勢を身につける。 消費行動を通して社会に参画することができる。 	○	○	○	